

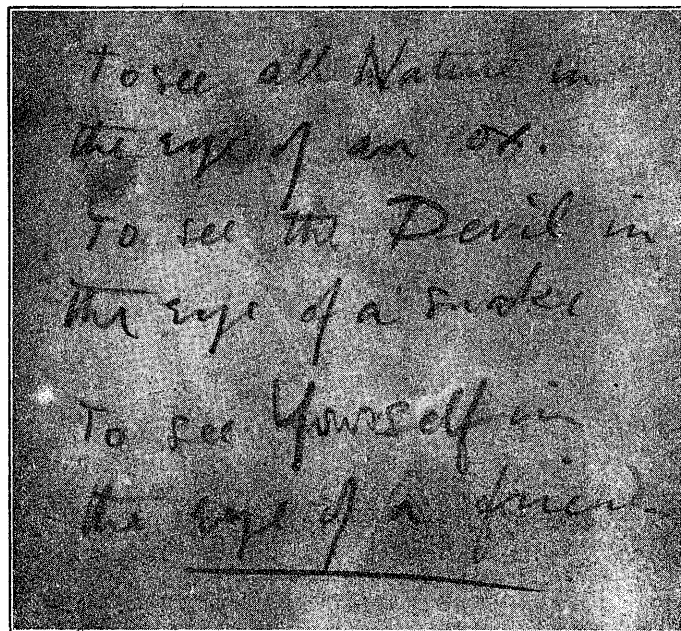
み表出し得る、一束の思想を聚集して、之を文學的追補として居る。氏は如何なる思想を以て製作する人であるかを知りたく思ふ人は一讀すべきものであらう。

私はリーチ氏が如何なる動機から製陶に傾むいたものか、一向に聞き及ばなかつたが、櫻木町の家の庭の一隅には、竈と轆轤場があつて、乾山氏を迎へて、樂焼を學び、その後横濱に通ひて、香山氏に就き本焼を學んだことは知つて居る。然しそれは製陶の技巧だけの方面で、形や紋様に至つては、全然自身に研究自得したものである。此間の展覽會には、陶器用の紋様の習作も多くあつたが、なか／＼面白い方面に着眼して居られることは認められた。その中の一は葡萄の紋様であつたが、筆觸も面白く墨色は守景の繪に見るが如き銀灰色の澁味があつて、とても普通の外國人には出來そうもないものであつた。樂焼の方では富本氏と殆んど同時に一新時期を作つたものと私は信ずる。今は確かな記憶はないが、去年の十一月末に突然私を訪はれたが、その時の用は、何か繪の話をするに就て、私の集めて居る小供の繪を少々借してくれとのことであつた、又その時此頃北京に居る何とか云ふ未知の人より、電報で會見を求めて來たが、その電文は、我より行かうか、君が來るかとしてあつたとのこと、其人はリーチ氏の書たものを讀みて、かく申込だものらしいが、氏も亦其人の書た論文を讀んで、是非面會したいと云ふて居られたが、それが今度の支那行きと成たの

であらう。氏にとりて此行の有益なるは云ふまでもなからう。さてつまらぬ事をなが／＼と述べたが、要するにリーチ君の日本滞在間は、氏にとりては修養の時代であつたので、今後その本國に於ける發展こそ、大に期待すべきものであらうと私は信ずる。(十一月十三日初夜)

リーチ氏筆蹟

長原氏のスケッチブックに記されたる散歩中の感想



バナナアド・リーチ氏は明年二月を以て日本を去らんとして居る。氏が在留六年間に、如何に深く日本及支那の藝術を咀嚼したかは驚嘆を償する。茲に氏の最敬服しつゝある諸氏の感想を請ふて之を掲げたのは、聊か氏が我日本の藝術に向て拂つた敬意に報おんと欲してある。微意を賛成して寄稿せられた諸氏に感謝する。宮本君の旅行中寄稿を得なかつたのは、大に遺憾とするところである。(犀水)

リーチ 柳 泉 虎

雨が降つて道が悪い或晩自分は兒島や里見と一緒に上野の山をぬけて櫻木町へ出た。もう五年前になる。その晩リーチの處でエッチングの話がある爲に十五六人の人がそのアテリエに集つてゐた。自分がその若い純英吉利の人を見たのは其時が始めてだつた。リーチはエッチングの歴史から話し出した。黒板に書いた名は第一に Rembrandt だつた。次に Goya だつた。それから Meryon Whistler, John 等を挙げた。そうして最後に「現代最大のエッチャーは John だ」と云つた。自分につて此新らしい名をリーチは力を込めて云つた。そうして此藝術家の事を云ふ時リーチは最も熱してゐた。リーチはその晩何遍デューン々々と云つたかしのれない。當時デューンの名も又その作品も知らなかつた自分には寧ろ奇妙にさへ思つた。リーチは宛らそれが確説である様に絶対のオーソリティーを含めて「今吾々の間に生きてゐる最大の藝術家はデューンだ」と云つた。

デューンの名が日本人の耳に入つたのも恐らく其時が始めてだつたらう。その晩は又日本に始めてエッチングの方法が傳つた時だ。

人はその崇拜するものゝ裡に自己の姿を映じてゐる。デューンのデッサンを一枚見ればリーチの作品が何を求めてゐるかを今想像する事が出來よう



第一回の白樺主催版書展覽會があつた時、一番何度も来た人の一人はリーチだつた。リーチは他人事でなく此展覽會を喜んでゐた。ルノアールの Soft ground etching とピアズレーとロダンのデッサンとの前に何遍もく立ち止つてゐた。「日本人にこんなコレクションがあるとは豫想外だつた」と云ふた。そうして「文展よりも遙かにいゝ展覽會なのになせもつと人が来ないのか」と云つてゐた。或日エールのエッチングを見て「まるで Caroulate

Box の繪だ」と悪口を云つた。リーチの趣味は此批評によく出てゐると思ふ。此展覽會の日から自分達とリーチとは親しくなつた。

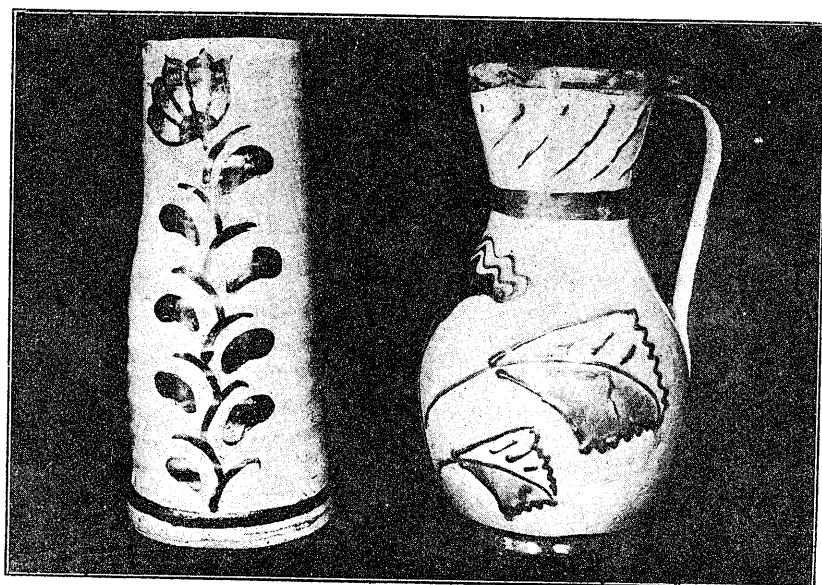
日本へ来てから二年間程はリーチの製作は停滞してゐた。英國で出来た古いエッチングより秀れたものは一枚も出来なかつた。或意味でリーチには暗い寂しい生活が續いて来た。此時（丁度吾々の興奮しないではゐられなかつた場合と同じ様に）リーチには突然新しい驚きが起つた。或日リーチと山脇と自分で武者の家を訪ねた。リーチは此時ヴァン・ゴッホに就ては何も知らなかつた。然しゴッホの書いた「囚人」の一枚はリーチをその日から目醒した。「英國人は眠つてゐるく。吾々は醒めなければならぬ」と云ひ出した。ゴッホはリーチにとつて實際一種の期待しない驚きだつた。歸る途中で興奮してきて石を蹴つたり電信柱を打つたりしてゐたと山脇から後で聞いた。此日以来チョーンと云ふ名の外にヴァン・ゴッホと云ふ名は新にリーチの口ぐせの様に話題に登つた。

リーチが日本へ来てから新しい興奮は實際その時から始つた。そうして製作に對する新しい道その日から切り破つた。リーチのエッチングはそれ以來きはだつて變化し進歩した。

その外リーチがよく話したのはブレイクの事だつた。リーチは自分にヴァン・ゴッホの事をよく尋

ねた、自分はリーチにブレイクの事をよく聞いた。自分の處にゴッホのデッサンが届いた時リーチも丁度來合せてゐた。二人はいつもの様に興奮して來た。「ゴッホの繪を室の壁に掛けたい。そこは自分の教會だ。そうしてブレイクの詩集は自分の聖書だ。That is enough, that is enough」とリーチは叫んでゐた。そうしてリーチは鉛筆を握りしめて紙の上に岩の繪を力まかせに書き出した。

「何かしてゐないと堪えられない。ぢつとしてゐる事は自分にはどうしても出来ない」とリーチは



瓶 花 陶製氏チーリ 注乳牛

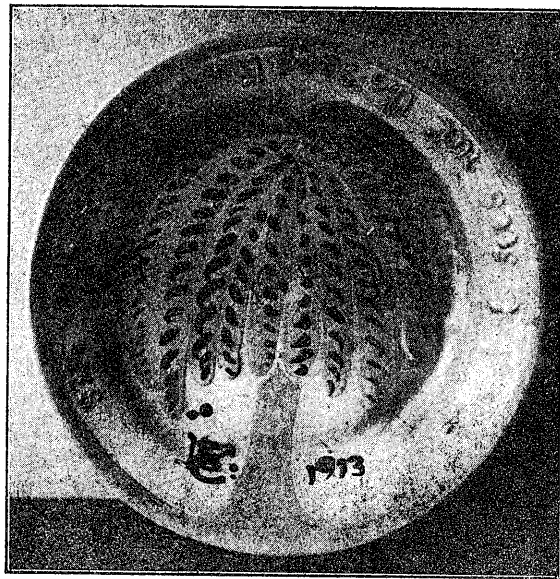
よく云つてゐた。實際リーチは勤勉だつた。又藝術にかけては非常に熱心になつた。陶器を焼くのに熱中した時などは二三日殆ど眠らずに續け様に働いてゐた。なんでもその間に二百幾個かを作つたと手紙に書いてきた。

去年の「白樺」の表紙はリーチが書いてくれた。然しその一枚を書く爲にリーチは丸一週間を費してくれた。白樺の樹を見に尋ねたりその寫真や繪をしらべたりして忠實に引き受けた義務を果してくれた。吾々は感謝しないではゐられなかつた。今年のも書いてくれるわけだつたが、どうしても氣にむいたのが出來ないからと云つて斷つてきたリーチは一枚の表紙畫にも藝術的良心を失う事を恐れてゐた。

去年の秋リーチと一緒に赤城へ登つた。リーチの喜びは非常だつた。吾々は落葉をガサ／＼云はせ乍らよく山や森を歩き廻つた。リーチは榲桲の木の特別な Irritation を感じてゐた。「ライオンが獸の王である様に、オークは樹木の王だ」と評してゐた。好きな木があると「遙かに girl よりいゝ」と云つて抱きついてゐた。「自然を見て興奮してくると樹に登りたい本能が起る」と云つてはよく樹登りをしてゐた。

やはり赤城にゐた或晩の事だつた。食事を終つて寝ころび乍ら吾々は話をしてゐた。そうして或る畫論の事から二人は激しく口論し出した。リー

チはむきになつて立ち上つた。自分も興奮してきて同時に立ち上つた。立つたまゝ一時間程もぶつ／＼に云ひ合つた。そうして二人とも一步も各々の主張を譲らなかつた。リーチはしまひに「餘り興奮して悪かつた」と云つた。自分も「粗暴な英語をつかつて「悪かつた」と云つた。之で二人は仲直りして氣嫌よくベットについた。翌朝リーチは床の中で目を醒まして「ゆうべのは實際互に brilliant



陶製氏チーリ

皿繪柳

disussion」だつた」と云つた。自分もその朝愉快に起き上つた。それ以來自分はリーチに一層の友愛を感じた。

リーチは恐らく自身の語を未だに固持してゐるだらう。自分も亦自分の説を托げる理由を未だに持つてゐない。然し互に自己の主張を固持するのを見るのは愉快だ。愛は新しくそこから湧いてきた。

自分はホイットマンとブレイクとが好きなのでよくリーチと是等の詩人の事を話しあつた。リーチもその時はいつも愉快に話した。赤城から歸りにリーチは汽車の中でホイットマンを讀んでゐたが興奮して來て「ホイットマンは基督に近い」と云つた。東京へついて二人で電車に乗つた。車掌の誤りでリーチは一停留場乗り越した。リーチは顔を赤くして車掌に怒りつけた。翌日リーチから葉書が届いた。「昨日自分はホイットマンを讀んでゐたのに、あんなみつともない事をして丁つた、許してくれ」と書いてあつた。

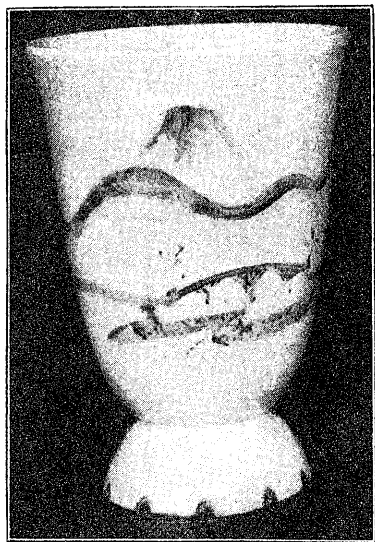
リーチは友達に對しては眞實の愛を感じてゐる山脇は學校の先生になつてから暫らく製作をしなかつた。心配してゐたリーチは此夏山脇が二枚の油繪を書いたと聞いて涙を流す程に喜んだ。自分がブレイクに關する紹介を白樺の四月號に出した時もリーチは自分の本のように喜んでくれた。或日リーチの處で、他の西洋人にあつた。机の上にあつた白樺を手にとつて「あゝ之が兼々 Mr. Leach の自慢してゐる雜誌なのだ」と獨言を云つてゐた。

自分は友達が少ない。リーチは自分が外國人に得た始めての友達だ。リーチは來年の春歸ると云つてゐる。そうして多分日本にはもう來る機會はないだらうと云つてゐる。自分は寂しい氣がしてゐる。もつとゐてくれるといゝと思つてゐる。然

しそんなわけにもゆくまい。

日本にゐる外國人は殆ど例外なく馬鹿者ばかりだ。一人として藝術に深い考へを持つた人もゐず、又今の日本の若い者を理解し得てゐる人もない。小泉八雲は古代の日本を日本人が愛してゐるよりも強く愛した人だ。同じ様に恐らくリーチ程未來の日本を今愛してゐる人はあるまい。吾々が何を希望し何を企圖してゐるかを同情を以て見てゐる人は恐らく外國人ではリーチ一人だらう。リーチは「若い日本を歐洲に紹介する義務が自分にはある」と云つてゐる。

或日リーチが來た。ピアズレーの繪を見てゐたがこう云つた。「ピアズレーは天才だ。然し彼の世界に自分は住みたくない。例へば古代の支那の繪又は雪舟の山水を見てゐると、そこにある木や川や石や家の中に實際住みたくなる。そう云ふ作品を自分は更に愛慕する」。自分は此考へに心から賛同した。



（磁）作氏チーリ （生花）トモノヒ

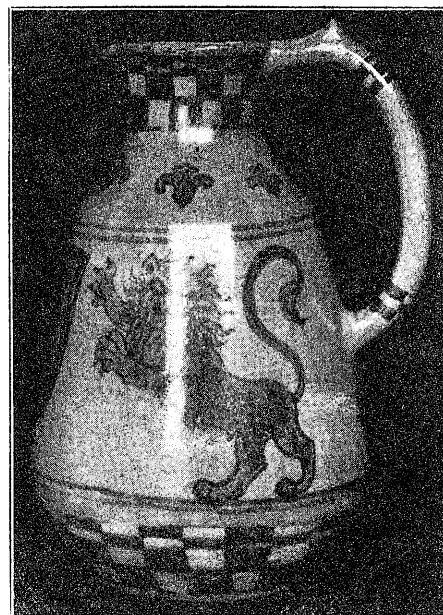
リーチにはいゝ意味の English blood がその性質と作品とにしみ渡つてゐる。リーチには Dead-end な處は少しもない。然し *Chrys* が好きだ。作品は希臘よりもゴシックの精神をおびてゐる。特に最近のエッチングは東洋風な處が出てゐる。そうして *Imagination* にその藝術を開かうとしてゐる。恐らくリーチの未來はそこに果されるだらう。又エッチングでも *Soft ground* の法ではかなり自身の分野を開いてゐると思ふ。リーチには日本人の作品にいつも邪魔をしてゐる *dexterity* が少しもない。Sincerity がリーチの作品を發展させてゐる。

リーチはその發達期を大膽に東洋で過ごした。恐らく自身を靜かに養ひ得る爲には此決行はリーチにとつて幸を與へたと思ふ。リーチが西洋にゐてその初期を混亂した藝術上の渦中に投じたなら恐らくリーチは今のリーチを得る爲に一層の苦悶を経たらう。リーチが東洋に來た事は寧ろ大きな獲得だつたにちがいない。何故なら茲へ來て當に東洋の精神に觸れ得たばかりでなく、西洋に起つた偉大なる最近の藝術上の運動を靜に意識的に理解する事が出來たからだ。

リーチは歸ろうとしてゐる。恐らくリーチに取つては歸るべき時期が來てゐる、リーチはもう自己を混亂させる事なく西洋の藝術を批判し得る確かな心を茲で養ひ得たからだ。之から一人で自身の道を開いてゆく爲に今歸らうとするのはリーチ

牛乳注(磁)

リーチ氏作



にとつて正當な決行だと思ふ。

リーチは歸らうとしてゐる。自分はリーチの未來を樂んでゐる友達の一人だ。彼が歸る事は又一つの發展だ。自分はそれを悦びたい。然しいつ又茲へ來るのかと思ふと何となく寂しい氣がする。もつと居てほしい氣がする。

こないだの晩リーチを新橋に送る夢を見た。そうして悲しくなつて涙ぐんだ。そうしてとうとう自分も倫敦へ一緒に立たないではゐられなくなつた。——夢は醒めた。然し夢は事實になるかも知れない。(我孫子にて)

ざんげ

さいすい

私は本誌の體裁には随分苦心を車ねて居る、然るに毎號出來上る毎に、種々の點で不満を感じることが常に心を傷める處である。此一年は一身上の災難が存りに來たので、餘程精神上にも打撃を受けた爲か、最も過誤の多かつたことを慚る。

此柳氏の稿も第一段から始めるべき筈なのに、擔任者の違算と自分の失慮で第三段から組込まれたのは失禮だつた事を謝す。